

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

この号の内容

- 1 ローマのコロッセオに落書きの「現行犯」の動画公開、訴追
- 2 コロッセオに名前を刻んだ観光客、警察が身元特定
- 3 EU 支部だより

- ・ドイツ人 10 代女性
- ・約 2000 年の歴史
- ・英国人カップル
- ・罰金約 230 万円



- ・歴史的建造物
- ・落書き行為の抑止
- ・文化遺産の大切さ
- ・一生消せない恥



イタリア ローマのコロッセオに落書きの「現行犯」の動画公開、訴追

2023.08.03 Thu posted at 18:30 JST (CNN)

イタリア・ローマの観光名所として知られるコロッセオ(円形闘技場)でドイツ人の10代女性が壁に落書きをする瞬間を観光ガイドが見つめ、とがめる場面を収めた動画がこのほど公開された。女性の家族は、何ら悪いことはしていないと主張。しかし、警察は女性と家族を連行して事情を聴取し、翌日に訴追した。イタリアのメディアが提供した画像には、ガイドが行動を見とがめて注意すると、女性がひるんだような様子も収められている。

建設から約2000年の歴史を持つコロッセオでは今年6月、英国人の旅行カップルが自分たちの名前を壁に刻んだ疑いで身元が突き止められてもいた。カップルの男性はその後、ローマの検察当局に書簡を送り、謝罪してもいた。ドイツ人女性や英国人カップルのこれらの行為は罰金が最大では1万5000ユーロや最長で5年の禁錮刑が下される可能性がある。

イタリア コロッセオに名前を刻んだ観光客、警察が身元特定

2023.06.30 Fri posted at 11:21 JST (CNN)

イタリア・ローマを訪れた観光客の男性が巨大円形闘技場コロッセオの壁に自分と恋人の名を刻んだとされる事件で、文化相は29日、警察がこの観光客の身元を突き止めたことを明らかにした。ジェンナーロ・サンジュリアーノ文化相は、「コロッセオで非文明的かつ愚かな行為に及んだと推定される人物」を国家治安警察隊(カラビニエリ)が突き止めたことについて、「裁判になれば、文化省は原告として出廷する」とした。

イタリアのANSA通信によれば、容疑者が起訴されて有罪になった場合、1万5000ユーロ(約230万円)以下の罰金か、5年以下の禁錮を言い渡される可能性がある。カラビニエリのベネチア広場支部はCNNに寄せた声明で、容疑者の行方を追っていることを確認し、2人が英国から来たと思われることを明らかにした。容疑者は伝統的な捜査や写真の照合によって突き止めたとしている。サンジュリアーノ文化相は、イタリアの歴史遺産を傷つけた者に対し、「資産面も含めて」個人的に責任を負わせる法案が議会を通過していると述べ、「損害を生じさせた者は支払わなければならない」と強調した。

EU 支部だより - 観光資源の保護と落書き問題 -

イタリアと日本は、独自の魅力的な観光資源を持つ国です。しかし、多くの観光客に訪れていただく代わりに、多くの問題も抱えているのが現状です。その1つに落書き問題があります。イタリアでは、美しい歴史的建造物や美術館が魅力ですが、これらへの落書きは文化遺産への敬意を欠く行為として厳しく取り締まられています。罰則としては、高額な罰金や懲役刑が科されることもあり、これによって落書き行為の抑止が図られています。さらに、監視カメラの導入や警備員の配置によって、観光地での不正行為を監視し未然に防ぐ体制が整えられています。

一方、日本も美しい自然景観や伝統文化が観光の魅力ですが、人気スポットや公共交通機関での落書きも課題となっています。日本でも防犯カメラの設置や警備員の配置が行われ、異常行動を監視し対処する仕組みが築かれていますし、落書きが発生した場合、迅速な清掃スタッフの派遣によって被害を最小限に抑える努力も行われています。さらに、教育活動が重要な要素として取り入れられており、学校や地域社会で文化遺産や公共物の大切さについての意識を高めるプログラムが展開されています。

両国とも、観光地での落書き問題に対し、以上のような取組みによって、観光地の美観や文化遺産の保護が図られ、観光客にとって魅力的な環境を維持しようとしています。インスタ映えや動画投稿など、安易に落書きをする行為は一生の記念ではなく、一生消せない恥といえるのではないのでしょうか。(松原)